

チームオレンジ ~ このまちで自分らしく生きていく ~



1. 基本情報(令和6年12月現在)

市・町名	長崎市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
390,436人	135,482人	34.7%	405.69km ²

2. チームの概要

チーム名	
開始時期	H24年 4月 1日 ~
実施主体	☒ 市町 ☐ 地域包括支援センター ☐ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
メンバー構成	認知症サポートリーダー
活動頻度	随時
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他
チームオレンジ三つの基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。
運営財源	☒ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 () 上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☐ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

長崎市では平成24年度から、認知症サポーターが認知症高齢者やその家族に対する理解ある応援者から実際に在宅生活を支える支援者として活動する認知症サポートリーダーの養成をしており、認知症サポーター養成講座の寸劇に参加したり、認知症カフェや高齢者ふれあいサロンの運営支援等で活動してきました。

認知症推進大綱で「チームオレンジ」が提唱された令和元年以降は認知症サポートリーダーの活動をチームオレンジの活動として位置付けています。

4. 活動内容

- ・認知症カフェや交流会等の支援
- ・認知症サポーター養成講座の周知啓発
- ・地域包括支援センターと協働し地域の認知症高齢者や家族の支援
- ・地域密着型サービスの運営推進会議や地域ケア推進会議の出席
- ・徘徊模擬訓練による見守り活動への参加



5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

- ・認知症の人に認知症カフェに関する情報を届けるため、認知症疾患医療センターと連携し、個別で認知症カフェの紹介をしてもらったり、地域包括支援センター広報誌に掲載しています。
- ・認知症の人から、意見を聞くことを心がけ、ご意見をもとに認知症カフェ間の交流や、認知症の人の体験談による普及啓発の機会を設けるなど、認知症の人のニーズに沿った内容とするよう心がけています。
- ・家族等介護教室や、認知症カフェ等既存の事業や個別支援から、認知症の人や家族の困りごとを把握しています。認知症のかたの家族等の集いの場を開催する場合は、認知症の人と一緒に参加できるよう、認知症カフェと同時に開催したり、介護サービス利用調整により開催日を設定するなど、認知症の方の家族等が、参加しやすいよう調整しています。

また、毎年チーム員への現任研修を実施し、R6年度は、先進事例の取組みから認知症サポートリーダーとしてどんな支援ができるのかを考えることで活動に対する意欲の向上につなげました。

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

毎年、認知症サポーター養成講座受講者の中から、地域で認知症の人や家族を支援できる方を対象として「認知症サポートリーダー養成講座」を令和6年度からは計2回シリーズに短縮して開催しています。

講座内容は、認知症の理解(医師)、認知症の方への接し方(認定看護師)、認知症本人の座談会(本人)、介護体験談(認知症の人と家族の会)、権利擁護について(認知症地域支援推進員)、市の認知症施策(行政)、認知症カフェ等への参加等になります。



7.活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

- ・徘徊模擬訓練等をとおして地域の関係機関・支援者とつながることで見守り、支援体制が構築されてきた
- ・認知症カフェ等で認知症本人とつながり、地域での個別支援が行われるようになった

【課題】

- ・民生委員やサロンサポーターなど他にも役割を持っている認知症サポートリーダーが多く、年齢層も高くなってきており、実際に活動できる方が減少してきている。

8.チームのアピールポイント

認知症サポートリーダーは、地域住民への『認知症』に関する啓発活動や認知症高齢者やその家族の在宅生活を支える支援者として、地域包括支援センターとともに認知症カフェや地域のイベント等において活動しています。



9.今後の活動について

- ・「認知症カフェ」や「介護をしている家族の会」等を活用し、認知症の本人やご家族の思いや経験を伝えられる場の充実を図ることで、認知症の本人の活動を支援していきます。
- ・認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練等を通じた認知症の普及啓発を行います。
- ・認知症サポートリーダー養成講座(ステップアップ講座)と現任研修との組み合わせで、実際に活動するチーム員を増員し、より細やかな支援が行えるような体制作りに取り組めます。